



## 病理診断部

### 初期研修

3～4ヶ月で、病理組織診断に必要な工程(固定, 切り出し, 写真撮影)および基本的な病理診断について学びます。診断に必要な情報収集能力(電子カルテを利用した臨床病理相関, 病理データベースの利用, 文献検索法など)も身につけてください。将来各診療科に進むに当たり, 必要な臓器を集中して学ぶことも可能です。病理解剖, 細胞診は通常の初期研修に含まれていませんが相談に応じます。

### 後期研修

#### プログラムの目的と特徴

病理診断を通して診療を支援する病理専門医・細胞診専門医を養成することを目的としています。組織診断・細胞診・病理解剖業務を通じて特定の臓器・病態に偏らない幅広い診断を学ぶと共に, 将来的には2～3の得意分野(subspecialty)でのエキスパート・コンサルタントとなることを目指して研修を行います。

#### 診療科の主な症例と症例数(またはベッド数)

生検・手術検体(約11,000件/年), 術中迅速組織診断(約1,000件/年), 細胞診(14,000件/年), 術中迅速細胞診断(約500件/年), 病理解剖(約50件/年)

#### 取得できる認定医・専門医

病理専門医(5年目), 細胞診専門医(6年目)

#### 他科研修の可能性

なし(要相談)

#### 留学の可能性

あり(研修中の短期留学を含む)

#### 関連病院での研修

2年目後半あるいは3年目より指導医(病理専門医)のいる病院で研修し, 専門医の取得を目指します。当科出身(関連)の病理専門医のいる病院として滋賀県立成人病センター, 近畿中央胸部疾患センター, 天理よろづ相談所病院, 高槻赤十字病院, 神戸市立医療センター西市民病院, 相澤病院, 北野病院, 高松赤十字病院, マサチューセッツ総合病院, 日赤和歌山医療センター, 埼玉医科大学, 川崎医科大学, 姫路医療センター, 京都医療センター, 京都桂病院, 済生会野江病院, 沖縄県立中部病院などがあります。基礎研究に特に興味があれば, 関連病院研修より先に大学院進学も可能とします(要相談)。

### **後期研修修了後の進路**

大学院進学か引き続き関連病院に勤務するかを選択します。どちらを選択しても、将来的に研修医や後輩の病理医を指導できる実力をつけることができるよう、自分の subspecialty を究める姿勢が求められます。

### **指導医からのコメント**

京都大学病院病理診断部は全国の国立大学病院の病理部の中でも他に類をみない規模と陣容を誇っています。様々な臓器、専門領域に精通したスタッフを擁しているため、皮膚病理、肺病理、移植病理、婦人科病理、泌尿器病理、といった専門分野の病理を学び、研究活動を行うことが可能です。病理学を通して医療に貢献したい人を歓迎します。